

知事と区市町村長との意見交換会

令和3年11月5日（金）
15時45分から16時40分

○**行政部長** それではこれから意見交換を始めさせていただきます。

本日各区長の皆様には知事との意見交換を行っていただく予定でしたが、既に御案内のとおり、現在知事は静養中でございますので、副知事が承らせていただきたいと思います。

それでははじめに副知事から一言、お願いいたします。

○**黒沼副知事** 区長の皆様、本日はありがとうございます。副知事の黒沼でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今、行政部長からお話をさせていただきましたが、小池知事が現在自宅で静養中でございます。恐れ入りますが、本日は私の方で代理を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

はじめに一言、私の方で御挨拶をさせていただきます。

2020大会でございますが、コロナ禍による一年間の延期、そして無観客開催という困難を極める中での開催となりましたが、区長の皆様方の多大なる御協力を賜りまして、成功裏に終了することができました。改めまして感謝を申し上げます。

また、長きにわたるコロナウイルスとの戦いですが、まさに最前線で、各区の区民の皆様方の命を守るという中で御奮闘をされており、東京都と一緒にこの間、連携をしながら戦っていただきましたこと、重ねて御礼を申し上げます。

現在、御案内のとおり、新規陽性者数は減少傾向、落ち着きを取り戻しつつございますが、ここでやはり緩めてしまつてはということで基本的な感染対策、こちらを徹底していただく必要がございます。

その上で社会経済活動を再生・回復に繋げていく道筋を今こそしっかりと整えていく。保健医療提供体制についても、万全の備えを講じていく。こういったことに東京都は現在備えを進めているところでございます。

そしてその先、コロナ禍を乗り越えた先にありましては、いわゆる感染症だけではなくて震災・風水害といった複合災害の危機管理に対する備え、更には2020大会のレガシーをしっかりと都市のレガシーとして定着させていく。その先に持続可能な発展、サステナブル・リカバリーへと繋げていく。このことが首都東京の発展にとっては不可欠であるというふうに認識をしております。

本日は短い時間ではございますが、区長の皆様の忌憚のない御意見・御要望を賜ればと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○**行政部長** それでは千代田区の樋口区長から、御発言をお願いいたします。

○**千代田区長** 千代田区長の樋口でございます。本日はこのような機会を設けていただきまして、私ども62区市町村と東京都との連携を一層強化するための場として、大変ありが

たく感じております。引き続き、力強い御支援をよろしくお願いいたします。

また、小池知事におかれましては、いまだ御静養、安定、セーブされていると伺いました。どうか御自愛くださいとお伝えくださいませ。

さて、長期化するコロナ対策においては、小池知事をはじめ、関係者の皆様の精力的な取組、またその御労苦に心から敬意を表する次第です。

私ども千代田区におきましても、感染拡大防止や第5波における自宅療養者への対応、地元経済への支援等、全力を挙げて取り組んでまいりました。

とりわけワクチン接種率につきましては、区民の皆様の御理解と医師会、区内医療機関、薬剤師会等の御協力により、11月1日現在で1回目の接種を終えた方は83.6%、2回目の接種を終えた方が80.7%と、比較的高い水準でございます。

また、まだまだ油断できない状況でありますので、第6波等への備えに万全を期すとともに、東京都の御支援もいただきながら、千代田区の復興・回復に歩みを進めてまいりたいと考えております。

さて、本日は千代田区の私どもから三点事項を挙げさせていただきました。今、パワーポイント、画面にも映っておりますとおり、一番目がウォーカブルなまちづくり、二つ目が地域経済の活性化、三つ目が子供の教育と人生100年時代についてでございます。

本日はウォーカブルなまちづくりを中心にお話させていただき、他二点については簡潔に触れさせていただきます。

はじめに皆様に釈迦に説法でございますが、ウォーカブルなまちづくりとは、居心地のいい人中心の空間を作り、出掛けたくなる、歩きたくなるまちを作る取組です。

私ども千代田区はそれに加え、コロナからの復興や、エコも含めたサステナブルなまちづくり、コミュニティ、文化、芸術、産業の振興等、様々な観点を統合あるいは横ぐしにした取組を考えております。

これまで道路は場所と場所を繋ぐ線として、当たり前ですが交通インフラを主として考えておりました。しかしながら文化、芸術、魅力ある商店街等を楽しむ場として、賑わいを作り出すことで更なる活力を生み出す、道路こそ資源であると、そのような発想の転換を考えております。

御承知のとおり、千代田区には個性的で魅力溢れるまちが数多くございます。まちの魅力を更に引き出し、集まる人たちが有形・無形の文化に触れ、新たな文化も発信していく。まちを楽しみながら回遊していただくことで、地域経済を活性化する。ゆとりある憩いのスペースでは人と人との絆を感じていただく。ウォーカブルなまちづくりをベースにまちにゆとり、潤い、活力を作り出す。こうしたことを実現してまいりたいと考えております。

さて、本日要望させていただきますのは、具体的にこの実現に対しまして道路空間や河川敷地の弾力的な活用が可能となるよう、御支援をいただきたいという点でございます。

千代田区では都道の靖国通りがまさにまちの基幹、東西に走っておりまして、この沿道に世界有数の古書店街を有する神田神保町がございます。地域に根付いた個性的な飲食店も多くあります。神保町は賑わいある熟成した雰囲気漂うまちです。

この界隈の賑わいを後世に繋げるとともに、より歩きたくなるまちに対して発展していきたいと考えております。

そのためにはこの靖国通りに訪れた方々が滞留できるような空間を創り出す。例えばストリートファニチャーやパークレットを設置できるようにする等、都道の道路管理者である東京都には、道路空間の利活用に向けて柔軟な制度運用をお願いするものです。

また、業務ビルの機能更新の際には、駐車場附置義務によって1階部分に駐車場が設置されまして、路面店の賑わいが分断されてしまうといったケースも散見されます。こうしたことが起こらないようにするために駐車場条例や地域ルール等、弾力的な運用をどうぞお願いいたします。

更に本区には日本橋川、神田川が流れております。水辺空間を有効活用することも大切と考えております。人々が賑わいまして、また交流するスペースとして、例えば水上デッキ等をしつらえるための河川敷地の占用、護岸形態の工夫の他、橋詰広場、江戸時代は活用されていまして橋詰広場の再整備等ができるような御協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

加えて防災船着き場の整備に伴う舟運活性化を推進していくために、河川占用許可等についても御支援を賜りたいと考えております。

また、少し場所は変わりますが、区内には例えば都立日比谷公園等、都市計画中央公園もございます。賑わいや緑の連続性の創出、回遊性の向上の観点等から、周辺のまちづくりと連携して進めていきたいと考えておりますので、こちらもよろしくお願いいたします。

ウォークアブルなまちづくりの推進は、都市の資源を最大限活用するとともに、ゆとりと魅力のある空間を作り、アフターコロナのよりよい復興、サステナブル・リカバリー、持続可能な回復を目指すものでもあります。

また、河川空間や公園も含めて、「未来の東京」戦略に掲げておられる、人中心の歩きやすいまちづくりプロジェクトと軌を一にするものです。

東京都の御支援・御協力を得ながら進めてまいりたいと考えております。是非とも御協力お願いいたします。

次に地域経済の活性化につきましては、千代田区の秋葉原、外神田という地域特性を活かしまして、コンテンツやeスポーツ等、新たな産業の柱にしていきたいと考えております。

既にスタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアムにも参加・連携させていただいておりますが、東京の中心である千代田区がスタートアップのまちとしてのブランドを国内外に発信していくことは、東京都のスタートアップ都市東京戦略にとっても重要なことだと考えております。

今後も都との連携を強化するとともに、人的・技術的な面等、多面的なサポートをお願いしたいと思います。

最後になります、子供の教育と人生100年時代についてであります。

コロナ禍を経験した私たちは教育分野におけるDXを推進しまして、子供たちの学びの機会を保障しなければならないです。併せましてICT教育を充実し、時代の変化に柔軟に対応し、自ら考え未来を切り拓く、そうした人材を育成する必要があると考えております。

また、人生100年時代につきましては、フレイル対策の重要性の理解・促進、高齢者がフレイル対策や介護予防に繋がる取組を継続できるような動機づけが重要です。

また、その前段として壮年期の成人病予防から高齢期のフレイル対策・介護予防へと、予防の取組が変化するタイミングを意識づけることも大切だと考えています。

更に健康寿命の延伸を目指し、元気な高齢者が身近な地域で、多様な活動から居場所を見つけられるような地域づくりや支援が必要だと考えております。

いずれの課題につきましても、「未来の東京」戦略で都において力強く取組を進めておられる事項でありますので、私どもも適切な役割分担の下、協力して進めてまいりたいと考えております。

幾つかお願いを申し上げましたが、どうぞ引き続き御支援賜りますよう、よろしく願いいたします。途中でちょっと音がうるさくなりまして、失礼いたしました。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは副知事からお願いいたします。

○黒沼副知事 区長、どうもありがとうございました。私の方からはウォーカブルなまちづくりについて、発言をさせていただきます。

今、具体的なお話をいただきました、ウォーカブルなまちづくりにつきましては、都は「未来の東京」戦略におきまして、都市の機能を更に高める戦略としまして、人中心の歩きやすいまちづくりプロジェクトを推進してございます。

人が楽しく歩けるまち、歩いて暮らせるまちを実現していくために、人中心の歩きやすい空間の創出、自転車利用環境の更なる充実、民間活力を活かした公園整備の取組等を進めてございます。

ただいま区長からお話をいただきました、道路をまさに資源として活用していただく、歩行者中心の道路空間の創出、更には水辺空間の魅力の向上、都市計画公園と地域のまちづくりの連携等、貴区のウォーカブルなまちづくりに対する取組は区長からもお話をいただきましたとおり、都の取組とまさに軌を一にするものでございます。大変心強い限りでございます。

様々な御要望を賜りました。柔軟で弾力的な制度運用といった御要望も踏まえまして、都として必要な御協力・御支援を行っていく考えでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

その他の御意見・御要望につきましては、総務局長からお答えさせていただきます。

○総務局長 10月の25日付けで総務局長に就任いたしました、村松でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私の方から主に三点につきまして、お話をさせていただきたいと思っております。

まず経済対策についてですけれども、東京の持続的な成長を生み出すためには、時代の

最先端のニーズを捉えて、新しい製品・サービスの開発や販路の拡大を目指す中小企業、あるいはスタートアップの取組を、しっかりと後押しすることが重要だと考えております。

都は今回で3回目を迎えます、東京eスポーツフェスタの開催を来年1月に予定しております。eスポーツへの関心を高めるとともに、中小企業の優れた製品やサービスのPR機会を創出することによって、関連産業の振興を図ってまいります。

また、千代田区内に国内外の広域展開に挑むスタートアップの支援拠点といたしまして、NEXs Tokyoを設置して、コミュニティの場の提供やモデル事業創出プログラム等を実施しているところでございます。

こうした支援拠点を区内スタートアップにも是非活用していただきまして、都と区が連携して、スタートアップの成長を支援していきたいと考えております。

今後ともこうした取組を通じて産業の活性化を図り、東京の持続的な成長を図ってまいります。

続きまして子供の教育についてです。都では「未来の東京」戦略等におきまして、子供たちの個性や能力に向き合っ、成長を社会全体で支える東京型教育モデルを展開することといたしました。

今後は一人1台端末を活用した学びを充実させ、一人一人の個性や能力を最大限に伸ばす学びを充実させる等、総合的な取組を展開してまいります。

続きまして長寿についてですが、フレイル予防のためには正しい知識の普及啓発が必要でございます。都はこれまで正しい知識や予防のポイントを、ホームページ等を通じて広く都民に普及啓発をしてきたところでございます。

また、今年度から高齢者が自宅にしながら、スマートフォンやタブレット等のデジタル機器を活用して、オンラインで仲間の皆さんと一緒に健康づくりの取組等、区市町村に対して補助を行っているところでございます。

教育・長寿に関する取組につきましては多岐にわたりますが、今後とも貴区をはじめとし、区市町村と連携・協力し、様々な取組を一層推進してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

○行政部長 樋口区長、どうもありがとうございました。

○行政部長 それでは続きまして港区の武井区長、御発言をお願いいたします。

○港区長 港区長の武井です。私からは二点、お話をさせていただきます。

一点目は喫緊の課題としての追加ワクチン接種における広域調整と情報提供について、また二点目は将来に向けた都市の水辺活用のビジョンの共有と、実現に向けた更なる取組についてのお話です。

ワクチンについてはもう日々いろいろな状況が変わる中で、予めお伝えしている内容と若干違うこともお話をさせていただくかと思いますが、どうぞよろしくをお願いいたします。

まず追加ワクチン接種における広域調整と情報提供についてですが、これまで12歳以上の国民をあまねく対象にするという、かつてない規模のワクチン接種、各区が地域特性を踏まえながら、様々な工夫を凝らして進めてまいりました。

画面で御紹介しておりますように、港区では区民の接種率85%を目指して取り組んでいるところです。

今年9月に啓発ステッカーを、オレンジ色のステッカーを作製いたしました。これは東京2020大会のピクトグラムからヒントを得まして、区の職員が作った手作りのものです。区有施設の他、区内の企業や駅構内や、商店街の店舗にも掲げていただいております。

次の画面になりますけれども、これは区内のホテルを接種会場として夜間、または深夜帯に接種を行っているものでございます。区民に限らず、どなたでも接種をしていただける夜中の会場として、多くの方にも利用していただいているところです。

現場といたしましては、いろんな工夫を重ねながら、2回目の接種とともに3回目の追加接種の準備も進めているところです。そのためにやはり欠くことのできないものが、お一人お一人の接種記録を正確に把握して、御案内して、体制を整えるということになります。

これまでもワクチンの必要量の見込みと、その確保が大きな課題でありましたけれども、接種計画全体に影響をする問題でございます。

特に企業における職域接種でVRSへの入力が遅れが生じていること等もあるようでございます。区としても働きかけておりますけれども、東京都からも企業等に対しまして、迅速な入力を強く働きかけていただきたいと思います。

また、3回目の追加接種を実施していくに当たりましては、画面でも御紹介いたしましたように、各区でワクチンの接種や啓発のノウハウは各区で蓄積されております。それを活用しながら、また2回目の接種から8か月経過という対象の要件があります。一時的に集中するということは1回目の時とは大きく異なることとは思いますが、接種計画はこれまで以上に綿密な計画としていくことが求められますし、また、そうした準備を進めているところでございます。

それにつきましては、やはり接種の計画が各区の計画どおり進められるように、東京都におかれましては計画的なワクチン供給を担保していただきたいと思いますのでございます。

また、最近大変気になっておりますのが、11歳以下の子供への接種についてです。アメリカでは5歳から11歳の子供を対象に、ファイザー社製のワクチン接種が開始をされました。

日本ではまだ国の方針が明らかにされておりませんが、3回目の追加接種の時期と並行して、子供の接種を実施する可能性も想定しておく必要がございます。従来の12歳以上のワクチンとは容量等が異なることも報じられておるところから、接種体制やワクチンの確保にも大きく影響をいたします。

また、何より子供に対する接種ですので、保護者の方々からの専門的な相談も多く寄せられることが予想されます。区におきましても、看護師が直接お答えする相談ダイヤルを設置しておりますけれども、東京都におかれましても、より専門的な内容も含めまして、十分な相談体制を組んでいただきますよう、お願いいたします。

また今後、これから初めて打つ方、2回目の方、3回目の方、様々な方がいらっしゃると思います。また、ファイザー、モデルナを追加接種については、どういう扱いにするか。そうしたものもまだ不明な点もございます。都におかれましては人材の確保も含めまして様々な状況を想定していただきまして、区が十分な準備期間を確保できるよう、国に対して今後の方針等の情報提供について、迅速に行うよう働きかけていただきたいと思います。

また、都におかれましても、都の方針等について実施主体である区の状況に配慮いただきまして、速やかに御提供いただきますよう、お願いいたします。

また、関連いたしまして、現在も各区のワクチン見込み調査、自治体間の配分調整、都としても行っていただいております。本当にありがとうございます。こうした広域調整は大変有効で、また欠かせないものでございます。

今後も過不足のタイミングを捉えながら、区ごとの需要に応じていただけるよう、スピード感のある調整を是非よろしくお願いいたします。

二点目は都市の水辺活用のビジョンの共有と、実現に向けた更なる取組についてのお話です。

東京都では「未来の東京」戦略の中で、東京ベイ eSG プロジェクトを掲げられております。泳げる東京湾の実現をプロジェクトに位置付けられました。

区としてもお台場等の水辺を抱えております。お台場を泳げる海に、を合言葉に、長年取り組んでまいりました。区の長年の取組にも御共感をいただいたことというふうに思っております。大変大きな前進と捉えて深く感謝を申し上げます。

画面で御紹介をしておりますように、区はお台場のまちが出来ました平成8年から、地域の住民や企業の方々と共同でお台場の砂浜の清掃活動を続ける等、お台場を泳げる海にするために、区民と共に取り組んでまいりました。

また、東京2020大会でお台場がトライアスロン等の競技会場となったことを契機に、次回2024年大会の開催地のパリ市と連携しまして、パリ市は都心の水辺であるセヌ川でトライアスロン競技を行う予定でございます。そうした御縁を契機に連携を進めておるところでございます。

そしてお台場海浜公園を管理する東京都からも、多大な御協力をいただきました。海水浴イベントを開催する等、泳げる海の実現に向けた取組を一挙に進めているところです。

この2020大会期間中に、パリ市の幹部の皆さんと意見交換をしまして、引き続き水質の

知見を共有したり、今後の連携について確認をしたところでございます。

こうした取組を東京 2020 大会のレガシーとして、大切に育み、次代の区民、とりわけ子供たちに残していきたいと考えております。

水辺には様々な魅力があります。眺望を楽しんだり、あるいは散策したり、水を身近に感じることで心に潤いももたらしてくれます。

区としましても水辺を都市の貴重な地域資源と捉え、砂浜の清掃活動や海水浴だけではなく、運河沿いの歩道整備やライトアップ等、水辺の魅力向上にも積極的に取り組んできました。

しかしながら、大変大きな課題であります水質そのものの向上につきましては、下水事業を執行し管理する東京都が中心となって、改善に取り組んでいただくことなしにはできません。

貯留施設や高速ろ過施設を整備する等、下水道改善を計画的に進めていただいておりますけれども、やはり都民・区民が水質改善を実感できる目標として、今回新たに掲げていただいた、泳げる東京湾という将来像は分かりやすく共感を得られるものと考えております。

この「未来の東京」戦略では、2030 年以降の実現をイメージされていますけれども、更なる貯留システムの整備等によりまして、泳げる海にするための指標を定めていただき、取組を進めていただきたいと思います。

下水道法施行令の新基準に対応するための対応は、以前から取り組んでおられるということは聞いておりますけれども、いまだやはり簡易処理の下水の処理水が放出せざるを得ないという状況も生じているところでございます。

港区に位置しますお台場の近くでございます芝浦の水再生センターの処理区域は JR 山手線の内側の広さに相当しております。非常に広大なエリアの下水処理を担っております。上流においても施設整備、貯留施設等を整えていただくことで、芝浦の一時的な局地的な豪雨等による処理量の増加の負担軽減に繋がります。このことは簡易処理のみの下水が排出されるということの防止にも繋がるものと思います。

ひいては東京港、東京湾全体の水質改善にも役立つものと思いますので、是非対策の強化をよろしく願いいたしたいと思っております。

また、東京湾には広く流域が及んでございます。一都三県、政令市の市長で構成されます九都県市首脳会議には、水質改善専門部会も設置されていると伺っております。是非知事がリーダーシップをとっていただきまして、泳げる東京湾のビジョンの共有と、実現に向けた水質改善の取組を積極的に働きかけていただきたいと思います。

区としても水辺環境の整備、魅力向上に取り組んでまいりますので、東京都とも協力して取り組んでまいります。都におかれましては是非関係機関の皆様、力を合わせていただいておりますので、取り組んでいただきたいと思います。

また、最後になりましたが、小池知事の一日も早い御回復を御祈りしております。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 区長、ありがとうございました。

それでは副知事からお願いいたします。

○黒沼副知事 区長、どうもありがとうございました。私からは区長の今の御発言二点に関しまして、発言をさせていただきます。

まず3回目のワクチンに向けた広域調整の取組でございます。実は本日も厚生労働省に私行ってきました、事務次官他、関係局長とお話をまいりました。

国も今様々な調整に向けて鋭意検討しておりますので、都としても広域調整に向けて、地元の区市町村が住民接種をしっかりと3回目に向けて準備が整えられますよう、また、供給体制につきましても計画的にしっかりと供給ができるように、国とも連携をしていきたいと考えております。

国は本年の12月の3回目の接種開始に向けまして、区市町村で住民が住所地で接種を受けられるような接種体制を確保する。都道府県は区市町村を支援しながら進捗管理を行う。こうした役割分担案を示してございます。

接種を円滑に進めていくためにはこれまで以上に、区長からもお話がございました、それぞれの役割を踏まえたうえで、緊密に連携していくことが何よりも重要でございます。

区長からも御紹介いただきました、ワクチン85ですとか、週末ミッドナイト接種ですとか、様々な先駆的な取組を鋭意お進めいただいて、本当にありがとうございます。

こうした区の独自の取組もしっかりと踏まえたうえで、都が3回目にかなる調整の役割を果たしていくか、ここがキーだというふうに私も思っております。

今後とも区市町村と意見交換を積極的に行いまして、お話がありました企業の職域接種のVRS入力が遅れていることへの国の働きかけですとか、あるいは11歳以下の接種の問題ですとか、更にはモデルナ・ファイザーのお話もございました。

特に若者を中心に、ファイザー指向への問題等がございましたので、こうなるとファイザーの供給が果たし大丈夫かとか、様々な問題があるかと思えます。

こうした部分については、しっかりと都と国と情報をまず共有したうえで、ワクチンチーム等の場も通じながら、皆さんと連携を密にして、3回目の接種に向けて準備を進めたいと考えております。よろしくをお願いいたします。

続きまして、泳げる東京湾についての御提言をいただきました。

「未来の東京」戦略に掲げます、東京ベイ eSG プロジェクトは、自然と便利が融合した持続可能な都市を目指してございます。コロナ禍で豊かさの価値観が変容する中で、自然を感じることができる空間は、これまで以上に重要であると認識しております。

これまでの貴区のクリーンアップ大作戦の取組や、2019年だったと認識しておりますけれども、お台場プラージュ、あるいは2020大会でのトライアスロンの実施等、様々な取組が今積み上がってきております。

泳げる東京湾という目標につきましては、こちらも区長からもお話ございましたが、実現に向けました水質の問題等、様々課題はございますが、長期的な視点を持ちながら、都として何をすべきなのか、また何ができるのか、こういったこともしっかりと関係局と連

携をして検討をしながら、地元の区の皆さんの忌憚のない御意見もいただきながら、議論・検討を進めていきたいと考えております。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

○行政部長 武井区長、ありがとうございました。

○行政部長 それでは続きまして新宿区の吉住区長、御発言をお願いいたします。

○新宿区長 新宿区長の吉住健一でございます。今日は貴重なお時間いただきまして、ありがとうございます。

また、日頃から区政に対しまして、東京都からの様々な御助力を賜りまして誠にありがとうございます。

この度は副知事御就任おめでとうございます。都知事におかれましては、本当に一年半以上にわたるコロナ対応の中で過労ということでございます。本当にお見舞い申し上げますと同時に、早い御快癒を御祈り申し上げたいと思います。

それでは新宿区からの方からは三点、お話をさせていただきます。

まず一点目は、アフターコロナにおける魅力溢れる集客都市・新宿の実現に向けた都市機能の向上についてです。

これはいわゆる 5G を今西口で実践されていらっしゃるんですが、新宿の産業の中心となっています飲食店や小売業、また大型商業施設や映画館等の集客施設、あるいは宿泊施設といったビズターズ産業、あるいは文化芸術によるエンターテインメント分野が大変大きな打撃を受けています。

このため、アフターコロナの場面におきまして、これらの集積している都市としての魅力を最大限に発揮できるよう、各地域の特性を活かしながら、安全で快適な都市空間づくりをしていきたいと考えております。

その基盤となるデジタルトランスフォーメーション等によりまして、地域産業の新しい日常への転換、観光都市としての都市機能の向上を進めていきたいと考えています。

このため、現在西口方面におきまして実践していただいております TOKYO Data Highway、これを東口の方でも是非広げていただければありがたいと考えておりまして、その実現によりまして、AI や 5G 等の最先端デジタル技術を活用した、新しい日常における商業ビジネスやエンターテインメントスタイルを構築し、魅力溢れる集客都市として、選ばれるまち新宿の実現に向けて、都の御支援をいただきたいと考えております。

二点目のお話をさせていただきます。これは 2050 年 CO2 排出量実質ゼロの実現に向けた取組の推進についてです。

区では令和 3 年 6 月 5 日にゼロカーボンシティを宣言し、新宿再エネオークションや、都市再開発制度によるカーボンマイナスの推進等に取り組んでいます。

2050 年 CO2 排出量実質ゼロの実現に向けまして、「未来の東京」戦略の戦略 14、ゼロエミッション東京戦略に掲げられたプロジェクトを強力に推進していただきたいと考えております。

その中でおおまかなことを申しますと、区市町村向けの補助制度、これは拡充していただきましたり、あるいはその活用に当たっての要件の緩和、また都及び区が実施している家庭向け・事業者向けの支援策の一層の連携の強化。また再開発事業、これは大変大きな建物を作ることによりまして、CO2 の排出量が自然と増えてまいりますので、これを ZEH-M 等の促進をしていただきまして、ゼロエミッション化等、区と連携しながら取組を推進し

ていただきたいと考えています。

三点目でございますが、都市機能の向上に向けた踏切解消の推進について、お願いをしたいと思います。

昨今の連続立体交差事業の整備推進は安全・安心な道路ネットワークの実現にも寄与するもので、都市機能を高めるとともに防災面からも推進すべきであると、区も考えています。

一方、西武新宿線の高田馬場駅から西側の区内区間の踏切、全ていわゆる開かずの踏切となっています。このうち路線バスが通る踏切の（1時間当たりの）最大遮断時間、これは50分に及んでいまして、日常の暮らし、それから災害時の活動にとって大変大きな課題となっています。

この区間では西武新宿線の開かずの踏切を解消する連続立体交差事業、これが東京都の事業として昭和45年に都市計画決定をされました。残念ながらその当時は地域の理解を得ることが難しかったということもありまして、その後計画期間が終了し、失効したまま現在に至っています。

都市部において鉄道交通の安全性の課題解決のために、高田馬場駅から中井駅間についても決定されている都市計画による鉄道立体化の手法を含めまして、沿線の住環境等にも配慮した連続立体交差化に向けて、検討をお願いしたいと考えております。

この御当地におきましてはこれから拡幅をしないといけない都道が存在していないですとか、東京都のいわゆる鉄道の立体化につきましては、東京都もやっていただかないと進まない事業だと考えていますが、東京都が直接手を、今すぐやれる仕事ではないということは理解しております。

しかし、東日本大震災の際には電車が止まってしまったことによって、踏切がずっと封鎖したままになっていました。その点については、改善について西武鉄道ともお話をさせていただいていますが、やはり当時の記憶というものはかなり鮮明に残っています。

そうした意味では、都心部あるいは東京都内全域におけるバランスのよい開かずの踏切対策の一貫として、今後念頭に置いていただければありがたいと考えております。

新宿からは以上三点でございます。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは副知事からお願いいたします。

○黒沼副知事 区長、どうもありがとうございます。私からは魅力溢れる集客都市新宿の実現に向けた都市機能の向上について、お話をさせていただきます。

まさに新宿区さんが掲げる世界に注目され誰もが自由に行き交う国際集客都市というまちの将来像、こちらは都の「未来の東京」戦略で描く新宿の将来像と軌を一にしております。大変に心強く感じております。

これまでも都は西新宿を中心に5G等の先端技術を活用した実証フィールドの構築や、旅行者の快適な観光に資するデジタルマップの作成等、様々な取組を実施してまいりました。

区長からお話がありました、東口あるいは地域産業、商店街、芸術文化、エンターテ

インメントの支援を中心とした、新たな日常における商業ビジネスやエンターテインメントスタイルの構築といったお話をいただきました。

今後とも更なる魅力や新たな活用、持続的に創出し続ける「未来の東京」戦略に掲げます国際交流拠点都市新宿、この実現に向けまして、先端技術、観光、文化、様々な領域で貴区と連携して、しっかりと取組を前に進めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

その他の御意見につきましては、総務局長から発言をさせていただきます。

○総務局長 それでは私の方から二点につきまして、お話をさせていただきたいと存じます。

まずゼロエミッション東京の実現についてですけれども、都は再生可能エネルギーの導入に取り組む区市町村や都民、事業者を支援する等、多様な主体の取組を後押ししているところでございます。

また、再開発等についても、都市開発諸制度の活用にあたっては、一般建築物のレベルよりも高い環境性能を満たすことに加えまして、既存の地域冷暖房と近接するエリアでは利用検討を行うことを義務付ける等、環境の配慮を行っております。

今後とも貴区をはじめ、区市町村と連携を一層強化いたしまして、ゼロエミッション東京の実現に向けた取組を推進してまいりたいと考えております。

続きまして連続立体交差化の推進についてでございます。高田馬場駅から中井駅間の連続立体交差化に関してでございますけれども、鉄道立体化につきましては地域におけるまちづくりと大きく連動する、こうしたことから地元区が主体となって、地域の将来像や鉄道立体化を契機としたまちづくりの方針等を検討することが必要となっております。

また、未整備の都市計画道路と交差しておりまして、道路整備計画との整合性を図る必要もございます。

都といたしましては、区が主体となって行う踏切対策や沿線まちづくりに関する今後設置予定の勉強会に参画する等、区が行うまちづくりの取組を支援しつつ、その状況や道路整備計画の具体化等を踏まえ、適切に対応してまいりたいと存じます。よろしくお願いたします。

○行政部長 吉住区長、ありがとうございました。

○行政部長 それでは続きまして大田区、松原区長、御発言をお願いいたします。

○大田区長 大田区長の松原忠義です。本日はこのような機会を作っていただいて、ありがとうございます。

また、小池知事でございますが、心から御見舞いを申し上げたいと思います。一日も早く回復してくださることを御祈念したいというふうに思います。

新型コロナウイルス感染症について、日夜都民の命と暮らしを守るために御尽力をいただいている皆様に、心から感謝と御礼を申し上げたいと思います。

また、10月の記者会見におきまして、中小企業への支援の中で、東京都と大田区が連携して支援した車椅子バスケットボールのキャスター部分について、知事にお話をいただきました。ありがとうございました。区内中小企業の高い技術力と行政の支援によって精度の高い部品が出来、その結果パラリンピックでの活躍に繋がったものというふうに考えております。

早速でございますけれども、本日、私からは三点お話をさせていただきたいと思います。

まず一点目でございますが、新型コロナウイルス感染症対応の支援でございます。港区の区長さんからも話がありましたが、これは東京都も23区も共通認識であるというふうに捉えております。

3回目のワクチン接種を開始する際には感染者が多い地域、東京都、中でも23区に重点的に配分するよう、国に強く要望をさせていただきたいと思います。

また、ワクチン接種に関する情報についてですが、国に対し少しでも早く提供いただけるよう、東京都と23区が連携して強く国に働きかけていきたいと考えております。

そして感染拡大防止協力金や支援金等の支給により、企業の皆様へ多大な御支援を実施していただいておりますが、飲食店だけではなく、中小企業の実態に応じた業態転換や事業承継等、アフターコロナに繋がる支援につきましても、引き続き御検討いただけますと大変助かります。

次に二点目でございますが、これは何度もお話させていただいておりますが鉄道沿線、新空港線と蒲田周辺のまちづくりについてでございます。

鉄道は都市の骨格として重要であり、東京の国際競争力を高めていくためには、鉄道ネットワークのより一層の強化が必要であります。

新空港線は東京都が本年3月に取りまとめた「未来の東京」戦略においても、事業化に向けた関係者の取組を更に加速と記載されております。

また、鉄道事業者をはじめとする関係者との協議・調整を加速し、調整が整った路線から順次事業に着手との記載もあり、検討熟度が極めて高いことから、速やかな事業化が可能路線であると認識をしております。

昨年の3月に私が知事と会談させていただき、協議の場を設置していただきましたが、この間、令和2年度は3回開催し、今年度はコロナの影響で開催できておりませんが、近々開催する予定と伺っております。

また、区民の皆様も新空港線の整備を待ち望んでいるところでございます。区としては

以前からお願いしているとおおり、今年度内に都区費用負担割合の合意ができるように、スピード感を持って協議の場を進めていただきたいというふうに考えております。

蒲田のまちは戦後復興の土地区画整理事業から約 50 年が経過し、蒲田駅周辺地区は全体的に機能更新の時期を迎えております。東西自由通路、駅前広場、駅舎、駅ビル周辺再開発を一体的に捉えた整備に向け、東京都をはじめとする関係者の協力を得ながら検討を進めております。

スライドも御覧になっていると思いますが、新空港線の実現は大田区のみならず、東京都の西部、更には埼玉県にまで影響を与え、都市の利便性向上等に繋がります。

新空港線の整備と蒲田周辺のまちづくりを一体的に進めることができる、この絶好の機会を逸することなく、東京都と連携して取り組んでいきたいので、是非とも御支援のほどをよろしくお願いいたします。

三点目でございますが HANEDA INNOVATION CITY、羽田空港跡地の視察及び支援についてでございます。

世界と大田区を繋ぐ新たなまちとして HANEDA INNOVATION CITY が開業してから一年が経ちました。国内外の人・モノ・情報を集積させ、新たなビジネスやイノベーションを創造するとともに、日本のものづくり技術や全国の多様な魅力を国内外に発信していく、新産業創造・支援施設（※発信拠点の誤り）となっております。

日本のゲートウェイである羽田空港に近接している立地性やスマートシティに取り組んでいる強みを活かし、国際会議が開催できる会議研修センターや、自動運転の研究開発を行う先端モビリティセンターを整備しております。

区内、ひいては都内への経済波及を創出し、コロナ後の日本の経済を牽引していく拠点になると確信をしております。

また、区は HANEDA INNOVATION CITY 内に HANEDA×Pi0 を開設しましたが、こちらにあるテナントゾーンはコロナ禍ではありますが 17 区画ありまして全て埋まり、企業の皆様からの関心の高さが伺えます。

更に HANEDA×Pi0 におけるビジネス交流を促進し、新産業を創出していくための交流空間を Pi0 PARK と名付け、10 月 1 日よりオープンいたしました。

是非 HANEDA INNOVATION CITY、そしてその中にある HANEDA×Pi0 に、大変御多用のことと思いますが、都知事はじめ皆さん方には是非来て、御視察をしていただければありがたいなと思います。以上です。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは副知事からお願いいたします。

○黒沼副知事 区长、どうもありがとうございました。私からは今区长から御発言いただきました三点につきまして、御発言をさせていただきます。

まずワクチンの 3 回目接種でございます。先ほども申し上げましたけれども、本日も厚生労働省といろいろ調整をしましてまいりましたが、国もいよいよ大詰め段階にはきているようですけれども、まだ確定していない部分もございます。

ただ、私が今日申し上げてきたのは、まずは供給をしっかりとやっていただきたいということと、あと現場が混乱するような事態はこちらとしては困りますということで申し上げます。

都としての広域調整の役割分担、更には大規模接種のあり方、職域接種のあり方、こういったものをしっかりと踏まえたうえで、ファイザー・モデルナ問題、様々ございますが、これは今コロナがこれだけ落ち着いているというのは、恐らく複合的な要因はあるかもしれませんがワクチンが寄与していることは間違いないと思います。

是非この3回目接種に向けて、都としても精力的に取り組んでまいりますので、情報の提供につきましては区長からもお話をいただきましたとおり、都と区と連携をして国に働きかけをしたうえで、しっかりと正しい情報を皆様と共有して3回目接種に臨んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

次に新空港線、蒲蒲線のお話をいただきました。新空港線につきましては国の交通政策審議会で、国際競争力の拠点と羽田空港とのアクセスの利便性の向上が期待されるという効果が示されました。関係者間において、費用負担のあり方等について合意形成を進めるべきという課題も示されたところでございます。

お話がございましたとおり、令和2年9月に設置をしました、都と大田区さんとの協議の場では、今様々な協議を進めてございます。これまで蒲田駅周辺のまちづくりとの整合を図りながら、乗換利便性の向上等について検討を進めているというふうに認識をしております。

今後はその収支の採算性等の精査も行いながら、都と区の負担のあり方も含めて整理を加速して、できる限り早期に協議が整うように、都としても取り組んでまいりたいと思っております。

三点目でございます。HANEDA INNOVATION CITYのお話をいただきました。区長、すみません。私もまだこちら行きたいなと思っていたのですが、まだ拝見しておりません。小池知事にも、区長から是非視察の御声掛けをいただいたことをしっかりと伝えさせていただきます。

HANEDA×Pi0のピオパークですが、10月から開設されたというお話も頂戴いたしました。是非いい機会があれば視察をさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。ありがとうございます。

○総務局長 それでは私の方から中小企業の支援の関係でお話をさせていただきます。

区長から、大田区の中小企業がパラリンピックで活躍した車椅子バスケットの製品開発に大きな貢献をされたというお話がございました。

大田区をはじめ、東京都には優れた技術力を持ちます中小企業が多数存在しております。

区長からもお話がございましたが、こうした企業の技術開発力をこれまで以上にしっかりと支援いたしますとともに、次代への継承、事業承継の取組も重要だと考えております。

区と連携しながらしっかりと今度とも取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○行政部長 松原区長、どうもありがとうございました。

○行政部長 それでは続きまして渋谷区の長谷部区長、御発言をお願いいたします。

○渋谷区長 渋谷区長の長谷部です。本日は貴重な機会、ありがとうございます。本来ならば知事ということでしたけども、健康がこういう状態ですので、本当に公務に当たっては体調というのは本当に大事だと思います。御自愛いただいて早く、またアクティブで元気な知事と仕事をしたいと思っておりますので、よろしくお伝えください。

そのうえで早速ですが、本日の発言項目に入らせていただきます。二つあります。

一つ目は高齢者のデジタルデバイドの解消についてです。

渋谷区ではこれまでも区民の利便性と行政の効率性の向上のための、非来庁型の行政サービスを推進してきました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からも、非接触社会の促進は喫緊の課題と認識し、スピード感を持って取り組んでいます。

行政に限らず様々な社会活動のデジタル化が急速に進む中で、誰一人取り残すことなく、その多くを享受できる社会の実現のためには、デジタルデバイドの解消を進めなくてはならないというふうに思っています。

それでこの命題に対する解決策として、今年から再来年度にかけて、65歳以上の区民の皆様が高齢者約1,700人にスマートフォンを今無償で貸与しています。

そこで使用してもらって、そのデータをしっかりと活用して、どういったことに悩んでいるかとか、どういった使い方をすればコミュニティが形成されるかとか、そういったことを積極的に取り組んでいっています。

これも東京都の中で今年度創設された区市町村新規包括補助の対象事業の一つとして選定していただきました。誠にありがとうございます。

ですから、これを続けていきますし、今この時点で分かってきたこととしては、例えばスマートフォンを貸与してもやはり使い方をサポートしていかなければだめだということとは元々分かっていましたが、それが改めて浮き彫りになっています。

既に持っている方で使いあぐねている方もたくさんいるようですので、もしかしたら今後はこの貸与するというやり方よりも、サポートするということが大切になってくるのかなとか、あといろんなアプリでこれから実証のデータが出てまいりますので、そういったものも東京都の方にフィードバックいたしますので、是非御活用いただいて、23区だけではなくて、どういった活用ができるか、いろいろ一緒になってまた考えていただければありがたいなというふうに思っています。

引き続き、まだ2、3年続きますから、新しいチャレンジにも引き続きサポートをお願いいたします。

もう一つです。これも大きなテーマになりますが、スタートアップ企業の育成環境の促進ということです。

渋谷区はスタートアップの企業環境を活かして、独自のコンソーシアム、通称シブデックというものを設立する等、昨年よりスタートアップ支援事業を更に加速してやっています。

国際的なスタートアップ企業の育成環境促進のため、一年間のスタートアップビザの運

用や、海外のスタートアップ招致の他、実証実験事業、Innovation for New Normal from Shibuya ではスタートアップ企業がサービスを試せる機会を提供しています。

そこで以下の取組について、今後、東京都の御支援・御連携をいただきたいというふうに思います。

一つは女性起業家支援です。在外の女性起業家や在京の女性起業家支援企業・団体と連携し、女性起業家支援プログラムを充実させるということです。

東京都においてはAPT Women プログラムを運営されていますが、投資家への教育プログラム・場・機会・人材・投資の機会やライフバランスが取れるためのプログラムをともに形成したいというふうに思っています。

二つ目。海外企業育成プログラムです。渋谷区では海外企業招致事業において、年間100社の企業招致を目指しています。その招致後、海外企業の成功事例を増やすことが不可欠になってきています。

そこで海外企業に向けた育成プログラムを東京都と一緒に連携し事業化したい。そういうふうに考えています。

三つ目。スタートアップの拠点形成です。世界のスタートアップ・エコシステム都市では、必ず官・学・民、そしてスタートアップと、これが揃った拠点を一つ有しています。渋谷区としても拠点を持つことでイノベーションを起こすコミュニティを形成していきたいというふうに考えています。

このイノベーション拠点の運営を東京都から御支援いただきたい、そういうふうに考えています。

そして四つ目になります。都施設の共同利用です。渋谷区内にある青山スタートアップアクセラレーションセンターにおいて、渋谷区と東京都との共同プログラムを実施する等、ともに使用できる施設にしていきたいということになります。

これは、お願いしたことになりますが、少し所感を付け加えさせていただきます。私自身が偉そうに言うわけではないですが、多分日本のいろんな首長の中で一番スタートアップの企業に会っている、出会って話している自治体だというふうに、首長だというふうに自負しています。

そんな中で強く感じられることがありまして、まず日本のこのスタートアップを取り巻く環境というのは世界の主要都市の中では遅れをとっているというのはしっかりと認識しなければいけないというふうに思っています。

ただし出遅れているだけで、周回遅れでトップグループに行くことはできると思っていますし、皆も今そういった気持ちでいるというふうに思います。

そんな中で日本国内の状況を見てみて、いろいろな他の都市のスタートアップを盛んにやられている首長さんとも交流がありますが、例えば先行している福岡、神戸等は本当に進んでいます。

行政がしっかりと取り組んで、パスポート、ビザの発行から、今渋谷区は一緒に東京都と始めましたが、とっくにやっていますし、拠点を持っていて、そこでいろんなコミュニ

ティが出来てきています。

ただ、そういったコミュニティで上がってきて、大きくなってきた企業はやはり東京に来るんですね。そのときに正直に言うと渋谷や港区に来ています。多分、渋谷と港区の合計が東京都のほとんど半分以上のスタートアップの数になっている状況です。

やはりその先端の行政で今やろうとしていることもたくさんあるし、いろいろとスタートアップが来て熱を感じるんですけども、我々はやはり区民税を中心にして運営している自治体でも末端の自治体でありますから、やはりそういった広域の商業についてはしっかり東京都と連携してやっていきたいですし、いろいろなプログラムをお持ちですけども、ばらばらにやっていたら非常に無駄だというふうに思っています。

ですので、大袈裟なことを言えば、もうスタートアップの担当部局そのまま渋谷区役所に来ませんかというぐらい思っています。

そこでいろんな事業を共同してやって実証したものを、他の区や今連携している他のスタートアップの地方都市と一緒に連携していく、これぐらいやってもいいのではないかと、そのぐらいの意気込みでいます。

ですので、今日いろんなお願い事をさせていただきましたけども、是非そういった点でもっとガンガンいかないと、これちょっと負けてしまいますというのが正直な感想ですので、是非本腰入れていただきたいなということで、強くお願いさせていただきました。すみません。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは副知事からお願いいたします。

○黒沼副知事 区長、ありがとうございました。貴重な御提言をありがとうございます。私の方からはまず高齢者のデジタルデバイド解消のお話をいただきましたので、こちらについて発言をさせていただきます。

御案内のとおり、「未来の東京」戦略の核に据えている取組で三つのCがございます。ChildrenとChōjuとCommunityということで、この三つのCの施策を進めるために、スピード感を持って戦略を実行する。このため、新たな補助制度を創設したところでございますが、渋谷区さんにつきましては早速、御利用いただきまして、デジタルデバイド解消に向けた取組を先駆的に進めていらっしゃいます。

お話にもございましたとおり、まずは3カ年かけて65歳以上の高齢者1,700人にスマートフォンを貸与される。そこから得られた様々なデータ、このビッグデータで何を生活の質の向上に繋げられるかといった、そういった取組を進められているというふうに認識しております。そこで得られた様々なデータについては、東京都にも御提供いただけるというお話もいただきました。ありがとうございます。

小池知事もこの辺りの施策については非常に深い関心を持っておりますので、今後とも是非こうした貴区の取組を更に端緒としまして、貴区と連携をして東京都の取組を進められるように、今後とも都としても御支援、それから都としても一緒に取り組んでいきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

スタートアップの関係につきましては、前産業労働局長でもあります総務局長からお話をさせていただきます。

○総務局長 それでは私の方からスタートアップ企業の育成環境の促進について、お話をさせていただきますと思います。

東京の持続的な成長を生み出すためには時代の最先端のニーズを捉えて、次々と新しい製品やサービスを生み出しますスタートアップへの支援が重要でございます。

区長もおっしゃっていましたが、既に御案内のとおり、残念ながらスタートアップにつきましては欧米や中国の状況から大きく水をあけられているということも、これもまた事実でございます。

渋谷区が女性起業家支援や海外企業招致等、スタートアップ企業の育成に力を入れていることはかねてから存じ上げております。

都におきましても女性起業家支援において、女性向けワークショップ等を行う APT Women 事業を実施しております。

また、海外企業誘致にあたっては、渋谷区にも御参画いただいておりますスタートアップ・エコシステム東京コンソーシアム、この取組を通じまして海外スタートアップの成長促進支援等に取り組んでいるところでございます。

今後とも渋谷区とも連携を一層深めながら、都内のスタートアップ支援をしっかりと進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお申し上げます。

○渋谷区長 スタートアップをスピードを上げていかないとまずいと思っておりますので、何かもっと現場でいろいろ話したり、本当に交流を更に深められたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。東京が頑張らないと本当にまずいですよ。

○行政部長 区長、どうもありがとうございました。

それでは最後に副知事からお願いいたします。

○黒沼副知事 本日は区長の皆様、大変ありがとうございました。現場の声、あるいは鋭意進められている先進的な取組。様々な御意見・御要望をいただきまして、大変有意義な時間を過ごすことができました。

本日賜りました御意見・御要望は、責任を持って私から小池知事に伝えさせていただきます。

今回の御要望・御意見等も踏まえまして、「未来の東京」戦略の推進。それから、来年度の東京都の予算編成に当たっての施策事業の検討、こちらにしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

今後とも区の皆様としっかりと連携をしながら、国難とも言えるこの危機を乗り越え、首都東京の持続的な発展に繋げていきたいと考えております。本日はどうもありがとうございました。

○行政部長 それでは以上で終了いたします。本日は御多用のところ、どうもありがとうございました。